

令和8年度 伊勢市地域福祉計画推進委員会 結果概要

開催日時 令和8年7月30日（木）10時00分～11時33分

開催場所 伊勢市健康福祉ステーション7階 福祉総合支援センターよりそい会議室1

出席委員 鵜沼 憲晴委員、小林 初美委員、石田 寛嗣委員、村井 正治委員
小野田 弥生委員、荻田 知恵委員、松村 まち子委員、秋山 則子委員、
石井 清文委員、野間 通代委員

欠席委員 福井 輝夫委員、浦田 貴大委員、伊藤 弘委員

事務局 伊勢市：健康福祉部長、健康福祉部次長、参事兼福祉総合支援センター長、
健康課長、介護保険課長、高齢・障がい福祉課長、福祉総務課長
子育て応援課長、保育課長、市民交流課長
福祉総合支援センター副参事、主幹、係長、主査、主事、職員
伊勢市社会福祉協議会：事務局長、地域福祉課長、主査、自立支援課長、係長
ボランティアセンター長

傍聴者 なし

1. 正副委員長選出

委員から事務局の提案を求められたため、委員長に鵜沼委員、副委員長に小林委員を提案し、了承される。

2. 第4期伊勢市地域福祉計画・地域福祉活動計画について

（1）令和7年度実績報告及び目標値の見直しについて

「第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画進捗管理シート」「第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画 基本目標の達成状況」に沿って事務局（伊勢市、伊勢市社会福祉協議会）より説明。

また、令和7年度実績において既に目標値を大幅に達成している取組、または達成できていない取組について、計画の中間期にあたることから、令和8年度以降の目標値を見直したい旨を併せて説明。

【委員からの主な意見など】

○『気軽に相談できる体制の充実』における「子育て支援センターにおいて子育て相談の充実」について、子育て相談件数 2,419件とあるが、どのような相談内容が多いのか。

（事務局回答）

1番多いのが「発達・発育」の相談。その次に、「基本的な生活習慣」の相談や、「保育サービス・保育所の利用」に關しての相談が多い。

○『様々な参加の場の推進』における「ふれあい・いきいきサロン等への参加」について、どのような団体があるのか。独居高齢者が増えてきているが、交流の場について身近な場所を開放するような施策はあるのか教えてほしい。

(事務局回答)

自治会単位の大きさで、公民館などで開催していることが多い。過去には、地域の個人宅を利用しサロンを実施しているところもあった。地域の空き家を活用し、住民主体のデイサービスや宅老所、子ども食堂を実施しているところもある。今後も社会資源を活用し交流の場を作っていきたい。

○『様々な参加の場の推進』における「同じ悩みを抱えた人が集う場の支援」について、

- ①対象者や年齢構成等を教えてほしい。
- ②伊勢市全体でひきこもりの方が何人くらいいるのか聞きたい。
- ③フリースペースこだまの開催について、すべて福祉センターで実施している。福祉センター近隣の方は良いかもしれないが、他に場所を変えて近隣の公民館など、地域の方が歩いていけるような場所で開催を検討してほしい。

(事務局回答)

- ①就労継続支援B型などの利用者が参加していただいている。年齢構成は幅広く20～50代。ひきこもりの家族交流会や若者の居場所に重点を置いている。フリースペースこだまは居場所として有効な場所であると考えているため、継続して行い、状況を見極めていきたい。
- ②内閣府の推計を伊勢市に置き換えると1,300人程度ひきこもり状態にある方がいると推計されている。民生委員、介護・障がいの事業所にアンケートを実施した結果は168人。フリースペースこだまは、ひきこもりに特化したものではなく、心に不安のある方など広い対象者を想定している。それとは別にひきこもりの居場所として、若者の居場所や家族の交流会などを実施している。
- ③今までに、商業施設や二見町で実施したが、参加者がいなかった。
地域に様々な交流の場があるため、地域の居場所とのマッチングを進めている。

○『地域活動活性化のための財源の確保』における「生活困窮者支援のためのフードドライブの充実」について、協力団体はどういったところが多いのか教えてほしい。

(事務局回答)

災害備蓄品をローリングストックしている企業からの寄附が多い。

(2) 令和8年度の取組目標

「第4期伊勢市地域福祉計画・地域福祉活動計画目標設定シート」に沿って事務局（伊勢市、伊勢市社会福祉協議会）より説明。

【委員からの主な意見等】

- 『様々な参加の場の推進』における「同じ悩みを抱えた人が集う場の支援」について、ひきこもりの人やそのご家族は、なかなか集う場へ行く勇気が出ないと思いますが、悩みを抱えた人が集う場をもっと広げてほしい。ボランティアさんは大変だと思うが、そういう場がいっぱいでき、一歩二歩と外に出ることができたら良いと思う。

(事務局回答)

ご家族から本音を聞けるようになるまでにはかなりの時間を要する。高齢になったご家族から、何年何十年とひきこもっていた子の相談をいただき、関わりを持つこともある。地域の中で、ひきこもりに関係なく、様々な悩みを話せる場が必要であるため研究などを進めていく。

- 『地域活動活性化のための財源の確保』における「赤い羽根募金百貨店プロジェクト協力企業登録の推進」について、さらに協力を求めていくとあるが、こういった方法で企業へ協力を求めていくのか教えてほしい。

(事務局回答)

協力いただいている企業・事業所へ、継続いただけるよう説明するのが主になるが、他の面で地域貢献していただいている企業・事業所へも、赤い羽根募金百貨店プロジェクトにご協力いただけないか説明を行っていく。

- 『権利擁護支援体制の充実』における「法人後見人の促進」「生活支援員の養成」について、成年後見人の相談、後見人を必要としている方々、日常生活自立支援事業を必要としている方が非常に多くなっている。反対に担い手を創出することが困難である。日常生活自立支援事業を支える生活支援員の養成が多くなることを願っている。

(事務局回答)

今後も地域包括支援センターと連携しながら成年後見制度を進めていくため、引き続きよろしくお願いしたい。

3. 部会の設置について

本会に新たに「権利擁護支援部会」を設置することについて、事務局から資料に沿って説明。

- 権利擁護支援のさらなる充実と次期計画の策定、具体的な施策化に向けた協議を進めていくため、「権利擁護支援部会」を設置することについて提案し、了承される。

- 部会の委員については、委員長が指名することとなっている。本会の委員から鶴沼委員、小林委員、小野田委員、野間委員を、また臨時委員については各団体から推薦を受けた者を提案し、了承される。

4. その他

- 事務局から「伊勢市終活情報登録事業」「思いライフデザインノート」8月1日開催の「ひきこもり講演会」9月～12月開催の「いせ市民後見人養成講座」9月4日開催の「成年後見講演会」について周知した。

以上